

進路だより

2022.3.9

第66号

香川東部養護学校
進路指導部

小学部9名、中学部10名、高等部24名の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の中、卒業生の皆さんは最上級生として、それぞれの学部で頑張ってきました。小学部の児童は中学生となり、中学部の生徒は高校生となり、高等部の生徒は社会人としての一歩を踏み出します。新たなステージに立つ皆さんのますますのご活躍を願っています。



高等部卒業生の進路先一覧

就労形態	進路先	地域	主な仕事・活動内容
一般就労	食品加工会社	さぬき市	製品の選別、段ボール箱の組立など
	造船会社	高松市	アルミ板の裁断、研磨、塗装など
	特例子会社	高松市	施設内の清掃、客室のルームメイクなど
	官公庁	高松市	パソコン入力、オフィス業務補助
就労継続支援 A型	ウィズくすがみ	高松市	うどん製造、食器等の洗浄、店内清掃、調理補助
就労継続支援 B型	ワークセンターはくちょう	東かがわ市	箱折り、ボルトナット締め、台紙折りなど
	東香川障害者自立支援センター	東かがわ市	封入作業、袋の紐通し、ラベル張りなど
	なごみ工房	東かがわ市	調理補助、ネギの皮むき、農作業など
	真珠の杜しど	さぬき市	ビス等の封入作業、電線の分別など
	みなとの家	さぬき市	段ボールの箱折り、組立作業など
	あんず	さぬき市	ビスの袋詰め、ラベル貼りなど
	氷上ファクトリー	三木町	ウォーターサーバーの清掃、焼き芋の袋入れなど
	ほのぼのワークハウス	高松市	ボルトナット、電線の分別、農作業、菓子作りなど
	もえぎの里	高松市	パン・菓子の袋詰め、食器洗い、調理補助など
	ドリームワークス	坂出市	製品の袋入れ、シール貼りなど
生活介護	白鳥園わこう	東かがわ市	軽作業、創作活動など
	真清水荘	さぬき市	創作活動、余暇活動、入浴など
	朝日平成園・すずらん	高松市	軽作業、創作活動、余暇活動、入浴など
	びいず	高松市	創作活動、ウォーキングなど
	ほっと支援キラキラ	高松市	軽作業、創作活動、ウォーキングなど
	コンサフォス	高松市	軽作業、創作活動、ウォーキングなど

小学部

小学部では、高学年から縦割り3グループに分かれて委員会活動を行っています。掲示委員会・クリーン委員会・部集会委員会のいずれかに所属し、月に2回活動しています。集団の一員としての意識を高め、人間関係を広げたり、児童一人一人が役割を分担し、得意なことを生かしながら活動する中で、主体性を高めたりすることを目的としています。

<掲示委員会>



1階の掲示板的の掲示をしました。みんなが見る掲示板的なので、丁寧に掲示物を作るよう気を付けました。「すてきな掲示だね!」と声をかけてもらったときは、うれしい気持ちになりました。

<クリーン委員会>



トイレトーパーやハンドソープの補充、手洗いの掃除に取り組んでいます。みんなに気持ちよく使ってもらいたいという思いで、メンバー一人一人がもてる力を発揮して頑張っています。

<部集会委員会>



毎月ある部集会で司会進行をしたり、挨拶運動を推進したりしています。みんなに分かりやすくなるよう、大きな声ではっきりと言うことに気を付けています。気持ちのよい挨拶も心掛けています。

中学部

今回は、3年生で行った職業に関する授業の一例を取り上げ、紹介します。

3学期になり、高等部を意識し始めた3年生。高等部入学者選考に向けて学習するなかで「入試ってなに?」、「高等部は中学部と何が違うの」、「高等部では、どんな勉強をするの」などの意見が出ました。高等部での生活を考えていくうちに、卒業後の話題にもなり、「仕事をする上で必要な力とは何か」についてもみんなで考えました。生徒からは、身辺自立、コミュニケーション力、社会のルールを守ること、金銭感覚を養うことという4つの力が必要だという意見が出ました。どういう力なのか、そのためにはどうしたらよいかを、指導者と一緒に考えることができました。自分に足りない力は何かを考え、意識しながら学校生活を送ることができています。



学級や学年を超えたメンバーに戸惑いつつ、初めて「作業学習」の授業に取り組んだ、中学1年生。2年生になると、生徒から「作業には集中して取り組まないといけない」という言葉が出るようになりました。年一回の社会見学で、企業や福祉事業所で働く方々の様子を見学したことは、「高等部では先輩のように現場実習に行く」という意識を高める貴重な経験につながりました。

そこで3年生では、社会見学先のスーパーで教えてもらった、野菜の袋詰め作業について学習しました。店員さんの作業の様子を動画を見て、袋に入れる野菜の数や向き、袋への入れ方について学んだ後、にんじんやじゃがいもの模型を使って実際に袋詰めをしました。繰り返し学習を重ねることにより、最後のテープ留めまでの一連作業を、自分の力で行うことができるようになりました。



高等部

10月18日から29日まで、1年生は校内にて職業週間、2年生は学校近郊の事業所にて集団での現場実習、3年生はそれぞれの進路希望先にて一人で現場実習に臨みました。コロナ禍の中、感染症対策を徹底しての実施となりましたが、生徒一人一人が、作業学習や職業の授業などで培ってきた力をしっかり発揮し、作業や活動に取り組むことができました。

高1 後期職業週間の様子



高2 後期現場実習の様子

進路指導部

今回の進路に関するトピックは、企業が求める人材についてです。

障害者の雇用に関する機関誌「働く広場」1月号に、「あなたとコンビに〜♪」のテレビCMでも知られる大手コンビニエンスストア本社の障害者雇用に関する記事が載っていました。インタビューを受けた執行役員の方が、これまでの取り組みや今後の方針などを紹介する中で、次のようなことをおっしゃっていました。

「当社の採用方針は、障害の有無にかかわらず、社員としてしっかり役割を認識してもらい、成果を出していくことを前提としています。(中略)重要視しているのは、障害を受容して働く意欲がある人かどうか。仲間への思いやりや成果を出そうと努力する姿勢も大事です。」

企業は、障害があっても仕事をして成果を出せる人を求めます。つまり、営利を目的とする限り、企業の求める仕事量や技能の水準を満たさなければ、雇用は難しいということになります。これは、本校を卒業して県内の一般企業に就職を希望する場合も同様です。

私は、高等部の職業の授業の中で、就職を希望する生徒に対して「自己評価と他者評価」の話をしています。例えば、自分では「掃除をした」と思っている、汚れが残っていると「掃除をしていない」と評価されてしまいます。就職するためには、現場実習で実習先の企業から評価をいただくなくてはなりません。言い換えれば、他者からの評価をきちんと意識し、作業の仕上がりや精度を高めることができる力をもった生徒が、就職できると考えます。

作業学習や職業の授業、部活動、日々の学校生活や家庭生活など様々な学習や活動から、働く力、成果を出せる力を身に付けることで、企業への就職の道が開けます。頑張りましょう。

進路指導主事 中川範夫

